

Вестник

№58

〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学文学部露文コース室

tel: 03-5286-3740

e-mail: robun@list.waseda.jp

<https://www.waseda.jp/bun-russia/>

- 会員の近況より
早大露文会の皆さまへ 和田達朗
ウクライナ・ポーランド支援コンサートのお知らせ 伊東一郎
カザフスタン留学体験記 牧元溪太
公開講演会「ニコライ・フョードロフの思想とその時代」傍聴記 赤淵里沙子
- 会員の最新情報
- 早大ロシア文学会維持会員制度についてのお願い
- 学会だより
- 2022 年度秋季公開講演会のお知らせ

会員の近況より

今般のロシア軍によるウクライナ侵攻を受け、露文 OB の和田達郎さんからウクライナ支援について会員の皆様へのお願いが寄せられ、伊東一郎先生からウクライナ・ポーランド支援コンサートのご案内を頂きました。また、露文 3 年生の牧元溪太さんがカザフスタン短期留学の体験記を、大学院博士課程の赤淵里沙子さんが 6 月 25 日に開催した春季公開講演会の傍聴記を寄せて下さいました。

早大露文会の皆さまへ

和田達朗

露文 10 年卒の和田達朗と申します。各界でご活躍の同窓諸兄姉にお願いがあります。

ウクライナ越冬支援のため、募金にご協力ください。

ご案内の通り、ロシア軍が昨年 10 月に開始した発電所等ライフラインの破壊により、ウクライナは現在、深刻な電力不足に陥っています。全土で停電が引き起こされ、暖房用の温水や浄水の供給も各地で途絶しています。北国の長く暗い冬に光・熱・水を奪われる市民の不便と不快、

心細さはいかばかりでしょうか。

私は 2019 年 7 月から 2022 年 3 月まで妻の郷里であるオデッサに暮らしました。第一子の出産を妻にとって快適な環境で迎え、そのまま子供が 3 歳を迎えるまで暮らしてみる、というような考えでした。そこへ 2022 年 2 月、ロシア軍の侵攻があり、「ウクライナ避難民」として一家で帰国する仕儀に立ち至りました。オデッサには妻の両親をはじめ大切な家族を残してきます。ウクライナの受難を強烈な心の痛みとともに見守っています。

これを書いている 12 月半ば現在、オデッサで電気が使えるのは 1 日に合計 8 時間程度とのことです。いまウクライナの統治が及んでいる領域の最南端付近に位置するオデッサでさえ、緯度でいえば稚内・宗谷岬よりも北、冬場はマイナス 10 度を下回ることも珍しくなく、寒波が見舞えば黒海の岸辺も凍ります。ウクライナに残った 3000 万人がいまどれほど厳しい越冬に臨んでいるかということがお分かりになるかと思います。

露文関係者の中には、今次の戦争に心を痛め、「何か自分にできることはないか」と自問された方も少なくないはずです。いまひとたび、この状況で同じ問いを問うならば、「自分にできること」とは何か、答えは明白であるように思います。信頼ある国際的な慈善団体に募金をすることです。

次のような選択肢があるかと思います。

- ・日本赤十字社 医療サービス・機器、医薬品など

<https://www.jrc.or.jp/lp/kaigai/donation/>

- ・ユニセフ 子供たちの安全・健康支援

<https://www.unicef.or.jp/kinkyu/ukraine/>

- ・UNHCR（国連難民高等弁務官事務所） 発電機、毛布、温かい衣服など防寒支援

<https://www.japanforunhcr.org/appeal/winter-support>

このうち防寒支援に特化した募金先を設けているのは UNHCR で、私自身はこちらに募金を行っています。ただし、こちらは用途がウクライナに限定されておりません。照会したところ、募金の際にウクライナ向けと明記すれば用途の指定は可能とのことでした。とはいえ、あえて指定しないという選択肢も当然あり得ると思います。

ロシアが明確な戦略としてウクライナの市井の人の生活の破壊を行っていることを思えば、越冬支援は①目の当たりの人道危機の緩和に資するのみならず、②侵略者の意図を挫き、戦争を終結させることへの具体的な貢献になり得ると思考しております。

どうか募金にご協力くださいますよう……加えて、もし可能ならば、皆さまが属しておられる組織・人間関係に働きかけて、共感と共苦の輪を広げてくださいますよう、伏してお願い申し上げます。

ウクライナ・ポーランド支援コンサートのお知らせ

伊東一郎

早稲田大学ロシア文学会のみなさま、ご無沙汰しております。コンサートのお知らせとお願いです。ウクライナ支援のためのコンサートが 2023 年 1 月 20 日(金)の 7 時より開かれます。ウクライナ語の合唱曲、ウクライナ民謡、ウクライナ作曲家の作品、ポーランド、ドイツ、日本の名

曲が演奏されます。私もウクライナ音楽の解説をし、ウクライナ語の発音指導で関わり、合唱団の一員としても歌います。キーウから来日しているウクライナの学生たちも参加します。チケット代はウクライナの越冬支援のために寄付されます。ウクライナの方は無料招待致します。是非ご来場いただきたく、ご案内申し上げます。

ウクライナ民謡とロシア民謡が好きだった私が、ただそのために早稲田大学に入学してウクライナ語とロシア語の勉強を始めたのが1968年でした。その年の8月にワルシャワ条約軍がプラハに侵攻しました。私が早稲田大学を退職して3年後の2022年2月に今度はロシアがウクライナに侵攻しました。半世紀を隔てて繰り返されたありえない事件に、その半世紀の間ロシアとウクライナの双方の文化を研究してきた私は大きな衝撃を受けました。しかし侵攻も戦争も文化や音楽を破壊することはできません。楽譜は燃やしても音楽は燃やせません。音楽は人々を蘇らせ、人々を結びつけるものです。今まで知られることの少なかったウクライナの音楽を知り、ウクライナの文化に触れるきっかけとしてご来場いただければ幸いです。

ウクライナ・ポーランド支援コンサート

「ウクライナへ平和の祈りと愛を」中島良史と仲間たち

2023年1月20日（金）パルテノン多摩大ホール

18時開場 19時開演 チケット2999円 全席自由席

チケット取り扱い ムタダー・プラハ企画コンサート事務局

Mail: aiai429y@icloud.com

TEL: 080-2190-9460

お問合せ

ムラダー・プラハ企画コンサート事務局

TEL: 080-2190-9460

Mail: mlada.praha.planning@gmail.com

カザフスタン留学体験記

牧元溪太

3年の夏休みに、カザフ国立大学のサマーコースに参加しました。このプログラムの知らせが来たのは締切の1週間前でしたが、私の学年は入学した時からコロナの影響で最初の2年間は授業も留学プログラムも全てオンラインで行われ、大学生としての思い出があまりにも少なかったので行くことを即決しました。現地の友人もたくさんできましたし、外大7人、上智5人、早稲田4人で行ったので他大のロシア語学科の人とも交流できてとてもいい経験になりました。カザフスタンは、料理が美味しくて、自然豊かで、毎日天気が良くて、人も優しくとても住みやすい所でした。

一般にカザフスタンというと、旧ソ連諸国の中ではベラルーシと並んでロシアとの政治と経済の結びつきが強いというイメージがあると思います。確かにロシアの宇宙船は今でもカザフ

スタンに着陸しますし、中央アジアでちゃんとロシア語が通じるのはカザフスタンかキルギスくらいなので他の旧ソ連諸国より繋がりが強いのは事実です。しかし実際、今カザフスタンではナショナリズム的精神が強く、特に若者の間ではロシアに強い嫌悪感を抱いている人が多いという印象が強かったです。公用語はカザフ語とロシア語で、街中では大体両方が併記されていますが、近年ではカザフ語が重視されつつあるので、これはロシア語しかわからない50代以上の人に配慮したものと考えられます。ついでに行ったウズベキスタンではほぼロシア語が通じなかったもので、ロシア語目的で中央アジアに行けるのは今のうちかもしれません。

カザフの若者がロシアを嫌う大きな理由としては、1つには教育があります。彼らは幼い頃からカザフ人のアイデンティティを生み出した19世紀の詩人アバイや大祖国戦争でモスクワ防衛のために戦った28人のパンフィロフ戦士などの英雄について愛国心を高めるような歴史教育を受けています。こうした教育のおかげでカザフ人たちは自分の国の歴史や文化に誇りを持って生きていました。

特にアバイ推しが強く、彼についての教育は30年以上前から盛んであると聞きました。街中を歩くとレーニン像が立っていたであろう所には全てアバイ像が立っており、人々はカザフスタンのゴールはアバイだと言っていました。アバイの詩集や訓戒集は全てカザフ語で書かれていて、ロシア語訳のものを見つけられませんでした。カザフ国立大学の日本語学科の先生が翻訳した日本語訳が港区のカザフ大使館に行くと無料でもらえます。彼は帝政ロシアの支配を受けていた時代にカザフ語を使う事を説いた人なので向こうではロシア語には訳さず、カザフ語で読むことが重要なのでしょう。

また、現地の学生は、ソ連時代にはロシアがカザフスタンの文化や歴史、言語に全く敬意を払わずそれらを消し去ろうとし、今でも中央アジア諸国を属国扱いしている事にとっても怒っていました。ある学生にカザフスタンにロシアとどんな関係を築いて欲しいか聞くと「ロシアと関わって欲しくない」と言い、またある学生は「ロシアは世界で一番人種差別主義的な国だ」と言っていました。

私はロシアが好きで露文に入り、本当はロシアに行きたかったのでロシアの悪口をたくさん聞かされるのは複雑な気持ちになりましたが、ウクライナとロシアが戦争している中でウクライナに近い立場にあるカザフスタンの視点からロシアという国と向かい合い、旧ソ連諸国の抱える問題に対する理解が深まったのはとてもいい経験になりました。

(露文コース3年生)

2022年度春季公開講演会

小俣智史氏「ニコライ・フョードロフの思想とその時代」傍聴記

赤渕里沙子

2022年6月25日、早稲田大学露文コース講師(任期付)である小俣智史氏によって、19世紀ロシアの思想家フョードロフについての講演会がオンラインで開催された。死者の復活や不死の実現を唱えたことから、しばしば奇抜な思想家という印象を与えがちなフョードロフについて、同氏はその特異性を強調するのではなく、反対にその思想を聴衆が納得できることを目指す

方向性で紹介した。どのような思想的背景からフォードロフの思想が紡がれてきたか、またこれまでどのようにそれが受容されてきたかなどを丁寧に説明することで、フォードロフの思想が斬新なだけでなく、論展開に多少飛躍があることは否めないながらも、当時唱えられるべくして唱えられた思想であったということが認められ、その思想史的意義が改めて浮かびあがってくるような講演であった。くわえてこうしたアプローチは、フォードロフの話に期待する聴衆はもちろん、19世紀から20世紀の文化・思想に関心のある聴衆にとっても、多くの示唆を与える興味深いものであった。

講演は、フォードロフの生涯や思想についての基本的な紹介に続き、その思想的・時代的背景や影響が語られ、最後に昨今のウクライナ情勢に関連して、フォードロフと戦争というテーマに目を向けながらその現代的意義を検討するという流れで進められた。

最初のトピックであるフォードロフの概説部分では、彼の論文集である『共同事業の哲学』からの引用を用いながら、フォードロフの思想において代表的なワードである「再創造」や「死者の復活」について簡潔に説明された。その際、まずフォードロフが死に対して、それが絶対不変の法則ではなく、自然と人間の関係があるべき形でないことによるもの、すなわち自然に対して人間が服従しているからこそ死があると考えていたことが前提として示されたため、フォードロフの説いた死の克服や自然統御というアイディアに対する理解がよりスムーズなものとなった。というのも、死に抵抗しようとする態度がそもそも現代人にとってあまり馴染みがないものともいえ、それを源泉にして展開されるフォードロフのアイディアを理解するのが容易でないのも当然だからだ。そのうえで小俣氏は、自然統制の手段となる科学技術に対するフォードロフの立場とともに、そこで重要な役割を果たす、祖先崇拜論として表出した彼独自のキリスト教意識についても明快に語った。サイエンス・ユートピアとして捉えられがちなフォードロフの思想に関して、それは伝統的にキリスト教のなかにあった概念を、当時世の中に溢れていた技術志向と組み合わせて、人々が受け入れられるように鋳直したものとも思われるとの説明は、フォードロフについて我々が理解する際に大きな助けとなるだろう。

次に、フォードロフの影響がしばしば指摘される同時代の人物、作家ドストエフスキーやトルストイ、思想家ソロヴィヨフなどとの関係が、実際の書簡などの紹介とともに論じられた。彼らのフォードロフについての言説は断片的に取りあげられることも多かったのだが、小俣氏はフォードロフに関して彼らが言及した背景を丁寧に紹介しながらその意図を紐解くことで慎重に考察を行った。彼らが相互に関心をもち賛同する部分があったとはいえ、詳細をみていくと、世間で言われているほどのはっきりとした影響関係はないという主張は、安易に彼らに関連付ける立場を踏みとどまらせるものとなるだろう。またフォードロフの遺稿が『共同事業の哲学』として出版された20世紀については、いくつかの方向性でその思想が紹介された結果、マルクス主義や無神論社会主義に対峙するキリスト教思想として意義をもったという思想史的位置づけが示された。

フォードロフの思想は、さきほども紹介したような「死者の復活」や「不死」、「自然の統御」のほかにも、「人類の兄弟的關係」（共同事業）、「宇宙空間への進出」、「肯定的純潔」など、かなり特徴的なアイディアが詰め込まれたものであるが、三つ目のトピックでは、それらがどうして生まれたのかを、フォードロフ個人の経験や時代背景から紐解いた。失われた家族の再生への内なる願望や、幼少期からの飢饉や戦争についての記憶というフォードロフ個人の経験をは

はじめ、時代背景としてマルサスの『人口論』との親和性や、当時の社会の宇宙志向について紹介されたのだが、それらを聞くにつれて、フォードロフの思想への聴衆の印象はかなり変化したはずだ。自身の経験から沸き起こった問題意識を抱えながら、当時懸案となっていた問題に対する具体的な解決策を組み込むべく後付けで妙なディテールを増やしていき、その結果サグラダファミリアのようなものが出来上がってしまったのかもしれないという小俣氏の推測は、フォードロフの思想自体をみても感得しえないその独特な性質をうまく捉えているようである。

講演の最後には、ウクライナへのロシア軍の軍事侵攻と関連して、フォードロフのもっていた軍隊の平和利用への関心や、社会・人類全体ではなく個人個人の生命に向けられた眼差しについて言及された。そこで示された現代的意義も興味深く、単に思想を読んだ段階ではかなり突飛なアイデアにみえていたフォードロフの思想が、枝先は奇妙に伸びていても、根はしっかりと当時の社会や思想、さらには普遍的な人類の問題につながったものとして、これまでとは少し違った姿で浮かびあがってきた。

(大学院博士課程2年)

2022年下半期会員の新刊情報（2022年12月26日調べ）

- 五木寛之訳、五木玲子画、親鸞著『歎異抄手帳』東京書籍(2022/8)
- 五木寛之、東海林さだおほか著『おいしいアンソロジーおやつ：甘いもので、ひとやすみ』大和書房(2022/8)
- 五木寛之著『五木寛之セレクション＝HIROYUKI ITSUKI SELECTION 1』東京書籍(2022/9)
- 五木寛之著『人生のレシピ：人生百年時代の歩き方』NHK出版(2022/11)
- 五木寛之著『人生のレシピ：孤独を越える生き方』NHK出版(2022/12)
- 海野弘著『クィア・アートの世界＝The World of Queer Art：自由な性で描く美術史』パイインターナショナル(2022/9)
- 海野弘著『ウクライナ美術への招待＝Українське мистецтво：ウクライナに愛をこめて』パイインターナショナル(2022/11)
- 黒岩幸子著『北方領土のなにが問題?』清水書院(2022/8)
- 坂庭淳史、南平かおりほか訳『小学館世界J文学館』小学館(2022/11)
- 桜井厚二、鈴木正美、上田洋子ほか著、ポスト・ソヴィエト文学研究会編著『現代ロシア文学入門』東洋書店新社(2022/9)
- 佐々木寛訳、ミハイル・バフチン、ヴィクトル・ドゥヴァーキン著『バフチン、生涯を語る』水声社(2021/6)
- 東海林さだお著『自炊(ソロメシ)大好き』大和書房(2022/9)
- 東海林さだおほか著『おいしいアンソロジーお弁当：ふたをあける楽しみ。』大和書房(2022/11)
- 東海林さだお著『町中華の丸かじり』朝日新聞出版(2022/11)
- 東海林さだお著『貧乏(ビンボー)大好き：ビンボー恐るるに足らず』大和書房(2022/12)

東海林さだお著、平松洋子編『東海林さだおアンソロジー：人間は哀れである』筑摩書房(2022/12)

東海林さだお著『サラリーマン専科 1-5』講談社(2022/12)

東海林さだお著『平成サラリーマン専科 1-3』講談社(2022/12)

東海林さだお著『アテッサ君 1-5』講談社(2022/12)

多和田葉子ほか著『翻訳、一期一会』左右社(2022/8)

多和田葉子著『カタコトのうわごと新版』青土社(2022/5)

多和田葉子著『太陽諸島』講談社(2022/10)

多和田葉子ほか著、毎日新聞学芸部編『よみがえる森鷗外』毎日新聞出版(2022/12)

千野栄一著『言語学を学ぶ』筑摩書房(2022/11)

戸田裕之訳、ケン・フォレット著『大聖堂：夜と朝と 上・中・下』扶桑社(2022/11)

戸田裕之訳、ジェフリー・アーチャー著『悪しき正義をつかまえろ：ロンドン警視庁内務監察特別捜査班』ハーパーコリンズ・ジャパン(2022/10)

平澤信一ほか著、岡村民夫、赤坂憲雄編『イーハトーブ風景学：宮沢賢治の〈場所〉』七月社(2022/8)

松下裕ほか訳、紅野謙介、清水良典編『ちくま小説入門：高校生のための近現代文学ベーシック 改訂版』筑摩書房(2022/10)

三浦清美著『ロシアの思考回路：その精神史から見つめたウクライナ侵攻の深層』扶桑社(2022/11)

三木卓文、イルゼ・バロネ絵『だれかがいちばん = Who Will Be the Strongest? = Kurš būs stiprākais? : ラトビアの民話をもとにした物語』写真文化首都北海道「写真の町」東川町(2022/8)

三木卓文、及川賢治絵『お月さまになりたい』偕成社(2022/9)

三木卓文、トルストイ原作、杉田豊絵『さんびきのくま』世界文化ワンダークリエイト(2022/12)

宮澤淳一、大森雅子、杉谷倫枝訳『ミハイル・ブルガーコフ作品集』文化科学高等研究院出版局(2022/4)

村山久美子監修・協力、Cuvie 著『絢爛たるグランドセーヌ=La Magnifique Grande Scène 20』秋田書店(2022/7)

村山久美子監修、工藤純子作、佐々木メエ絵『リトル☆バレリーナ 5』学研プラス(2022/7)

安野直著『ロシア文学とセクシュアリティ：二十世紀初頭の女性向け大衆小説を読む』群像社(2022/10)

* 著書を上梓された会員の方は、ぜひ編集部までご一報ください *

早大ロシア文学会維持会員制度についてのお願い

早大ロシア文学会の「維持会員制度」は、すでに多くの方々からのあたたかいご支援を頂戴

しております。おかげさまで、毎年『ロシア文化研究』を発行することができております。

『ロシア文化研究』発行の他にも、ニューズレター「ヴェスチ」の発行・送付、春季公開講演会の諸費用等にも、皆様より寄せられた会費が充てられております。

この制度は、会員の方々から広く「維持会員」を募り、維持会員になって頂いた方には、その年度の『ロシア文化研究』を年度末の発行に際して1冊お送りするという制度です。学会誌・ニューズレターの発行、講演会の諸費用等は大学からの補助だけではまかないきれません。会員の皆様には、本学会が担い続けている、日本のロシア文化研究の中心的役割をお察しのうえ、ぜひともご支援をお願い申し上げる次第です。一人でも多くの会員の方々からご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。維持会員になっていただけます方は、以下の要領にてご送金くだされば幸いです。

- (1) 年会費は1年につき2,000円となります。
- (2) 維持会員費納入には、同封の郵便振替用紙をご利用ください（口座番号 00160-7-87172 加入者名 早稲田大学ロシア文学会）。差出人欄には、住所と氏名だけでなく、郵便番号と電話番号も必ずお書きください。
- (3) 複数年のお振込みをいただいた方には、自動的にその年度発行分以下、『ロシア文化研究』を、発行され次第、順次、送本申し上げます。
- (4) 『ロシア文化研究』は、年度末に発行されます。従いまして、前年度の『ロシア文化研究』をご希望の方は、振込用紙の通信欄に、その旨、お書き添えください。

少しでも多くの皆様のご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

学会だより

- 2022年6月1日（水）～3日（金）に露文コースの合宿が軽井沢セミナーハウスで行われました。新型コロナ・ウイルス感染対策を徹底した上での開催となりました。
- 2022年度総会・春季公開講演会が6月25日（土）にオンラインで催されました。講演会では、小俣智史氏（早稲田大学文学学術院講師（任期付））に「ニコライ・フョードロフの生涯と思想」と題してご講演いただきました。この講演会の傍聴記はニューズレター本号に掲載されています。
- 2022年7月16日（土）に2023年度文学研究科ロシア語ロシア文化コース修士課程の推薦入学試験が行われました。合格者は3名でした。
- 2022年7月27日（水）、2022年度文学研究科ロシア語ロシア文化コース修士課程在籍者で、修士論文提出予定者3名による修士論文中間発表会が行われました。
- 2022年9月15日（木）、9月25日（日）に2023年度文学研究科ロシア語ロシア文化コース修士課程の一般入学試験が行なわれました。合格者は2名でした。
- 2022年12月17日（土）、文学研究科ロシア語ロシア文化コース修士課程在籍者で、来年度修士論文提出予定者1名による修士論文プレ中間発表会が行われました。

* ヴェスチに情報掲載を希望される方は、編集部まで原稿をお寄せください *

2022 年度秋季公開講演会のお知らせ

早稲田大学ロシア文学会では、1月28日（土）に2022年度秋季公開講演会を開催いたします。今回は、早稲田大学文学学術院非常勤講師の南平かおり氏に「バジョーフ作『石の花』をめぐって——日本の翻訳者たちはどのように作品と向きあったのか」と題してご講演いただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●早稲田大学ロシア文学会 2022 年度秋季公開講演会

日時 2023年1月28日（土） 14時から（15時30分終了予定）

会場 オンライン開催（Zoom）

*参加には事前登録が必要です（事前登録用 URL は下記）。

*一般、学生の皆様のご来場を歓迎いたします。

「バジョーフ作『石の花』をめぐって
～日本の翻訳者たちはどのように作品と向きあったのか～」
南平かおり氏（早稲田大学文学学術院非常勤講師）

*講演会への参加を希望される方は、以下の事前登録用 URL よりご登録下さい。

<https://list-waseda-jp.zoom.us/meeting/register/tJUldu2spzoiGdeFEZkpqyd7dY2gnWgGGIVt>

上記の事前登録用 URL へのリンクは、露文コース HP 掲載の「2022 年度秋季公開講演会のお知らせ」（<https://www.waseda.jp/bun-russia/?p=431>）にも記載されています。

上記 HP に記載されているリンクをご利用頂くとより簡単にご登録頂けます。

ご登録後、講演会参加用の情報を記載した受付完了メールが自動で送信されます。